

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1196501298		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイさいたま見沼グループホーム		
所在地	さいたま市見沼区南中丸948番1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 8 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同生活の場において、その人らしい生活が送れるよう支援をしております。</li> <li>・体操を多く取り入れ、職員の手が無い時は、YouTubeも取り入れ実施しています。</li> <li>・常勤の看護師による、健康管理の実施</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>オープンして1年4か月の新設事業所である。法人の理念を基に、事業所独自の理念「お客様の笑顔を大切にします。」掲げて、日々の支援に努めている。利用者のペースに合わせ、天気の良い日は散歩や駐車場を使つての笑顔溢れる青空体操、室内では歌や塗り絵などを楽しんでいる。また、生活リハビリを重視して、利用者に、それぞれ役割を持っていただき、食事は、野菜を切ったり、盛り付けをしたり、テーブルを拭いたりしている。掃除なども、モップ拭きや掃き掃除などを手伝っている。法人所属の管理栄養士が来て行う、正月のおせち、クリスマスケーキ、お誕生日会のケーキづくりなどは特に喜ばれている。医療との連携でも、提携医の訪問診療があり、希望者は訪問歯科も受診できる。また、常勤の看護師がいて、健康管理に努め、夜間もオンコールで対応している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様の笑顔を大切にしています」を理念に掲げスタッフ自らが笑顔でお客様と接しております。	オープンして、1年4か月、みんなで作った、事業所理念「お客様の笑顔を大切にしています」掲げお客様のペースに合わせ、散歩、歌、塗り絵、青空体操など楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さん、町会長様ともつながりも出ていて、コロナの状況を見ながら活動を増やしていきたいと思います。	自治会には、まだ加入していないが、オーナー、民生委員、町会長との連携が取れてきている。今後、町内会の行事や清掃などに、参加していく予定。また、地域連携室の貸出を行い、地域連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設では地域交流室があり、認知症介護施設としての役割を広めていく事を目指している(認知症の方のご相談など)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実質、参加方の運営推進会議は、現段階で行われておらず、書面での報告になっている	コロナ禍で、書面開催としている。開催日の職員、管理者、看護師、計画作成者などが、活動状況、ヒヤリハット、事故報告などを話し合い、書面を区役所、地域包括、家族に届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	送付でも受け付ける運営推進会議の議事録や介護認定の申し込みなどを、保険者の窓口で持参し状況を報告している。	運営推進会議の議事録は、直接窓口へ届けている。認定調査などの相談に、区役所の窓口を訪ねて、連携を深めている。また、市のホームページを確認して、コロナに関する、情報を入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、指針を示し、身体拘束に関する禁止事項が職員に閲覧出来るようになっている。また2ヶ月に1回身体拘束・虐待防止委員会を開催している。	2ヶ月に1回身体拘束・虐待防止委員会を開催している。欠席者には、議事録を申し送りノートに挟んで回覧している。また、不適切ケアの動画を職員に見てもらい、意見交換して、何が拘束に当たり、何が不適切ケアに当たるのかを、確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に対する研修を定期的に行い、そのような行為が無いよう施設全体で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、成年後見人を付けていらっしゃる方はおりませんが、理解を深め、活用できる環境を作っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約の際は、重要事項の説明をし、質疑がある場合には具体的なお話をし、理解を深めて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来なかったが、秋に駐車場で青空面会を行ったり日用品をご家族様がお持ち下さる機会に、日々のご様子などをお伝えし、ご家族様のご意見やご要望をお聞きしている	コロナ禍で、利用者との面会が出来ないので、駐車場で家族と青空面会を開いて、意見を聞いている。「日々の生活の様子が知りたい」との意見が多く、お便りなども写真を多く取り入れ配信している。	青空面会を実施しているが、今後は、引き続き、家族とのお茶会等実施しながら、家族からの、意見や要望を汲み取って、頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングを開催し、職員の意見に耳を傾ける時間を作っている。 ・定期的な職員面談を行って、意見が出やすい環境を作っている。	会議は、事前に利用者の状況や職員の意見、要望を記入してもらってから臨んでいて、活発に意見交換できている。また、個人面談も非常勤から正社員まで、随時行い、意見や要望を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が第三者機関に委託してアンケート調査などを行い、気持ちが確認できるシステムを作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のシステムで、パソコン又は、スマートフォンで学べるeケアラボを取り入れて個々のペースで学習できる機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社主催し外部講師の研修にオンライン形式で参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを作り計画書に反映させている。アセスメントには、ご本人様ならびにご家族様から意見も頂戴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族との信頼関係については、ご自宅へ訪問させて頂き、生活環境も目視しながら、ご家族様の意見に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行ったうえで、施設で出来るサービスをお伝えし、可能な限りで出来るサービスを提案し、必要に応じて支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など日々の暮らしで出来るとはやって頂き、生活リハビリを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で中々施設内で面会が出来ない為、お電話で会話を楽しむ時間など作っている。お客様はすぐに忘れてしまいますが、ご家族様には満足感があり、感謝のお言葉を頂ける		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	が家族様を通じて、お手紙や写真などをお持ちいただくこともございます。	青空面会には、家族の他に、叔母や孫も来ており、大変喜ばれている。また、家族に出した年賀状に返事が届いた時も嬉しそうだった。馴染みの美容院や墓参りなどの外出は、コロナ禍で、中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	室内外のレクにお誘いし利用者様通しの楽しむ機会を多く作っている。 体操は毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所以来、サービスが終了したお客様がまだいらっしゃいませんが、ご利用時の思いが消える事なく、求めがあれば施設と繋がって頂けるような環境を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日の体調や思いに耳を傾け、ご本人様の思いに寄り添っている。いつもはコーヒーたけ今日は紅茶が飲みたい。今日はまだ寝ていたいなど。	契約時アセスメントでは、特に過去の生活歴を細かく聞き取っている。入居後は、日々の支援の中で、願いや希望を聞き取っている。飲み物などは、毎日何が飲みたいか聞いており、難聴の人には、筆談で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣の中で疑問に思ったことは、ご家族様にご連絡し、今までの生活習慣や生活環境について確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回のカンファレンスを行い、出席できない方からも事前提出でお客様の変化について共有し現状を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設には、常勤の看護師が居て、介護職員としての配置もとり、医療・看護の両側面から利用者様と接し、異変を感じる場合には、医師や家族様と共有し介護計画書に活かしている。	月1回開催のミーティングの中で、ケアカンファレンスをしている。常勤の看護師がいて、モニタリングの結果を持ち寄り、利用者の状況をそれぞれ確認しながら、意見を出し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SCOPと言うタブレットを用いて、ケアプランを反映させながら行ったことを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時にはご本様にしたことを確認し、出来る限り対応している。また、時間がたつことで「したいこと」への思いも変わる為、入浴時や個別のケアの時に話しやすい環境の下で、今の思いを確認し柔なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にお誘いし、草花や農地での野菜の成長を見て、利用者様の楽しみに繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診を受けて頂いている。医師の診察で外来が必要な場合は、ご家族様と医師と施設で共有しながら、必要に応じて看護師も同席し受診を行っている。	内科の提携医がいて、月2回訪問診療がある。常勤の看護師がいて、日々健康管理に努めている。希望者には、訪問歯科も隔週で来ている。夜間は、看護師が24時間オンコール体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設においては、常勤で看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院時は、治療計画をお聞きし、必要な治療ならびに医療行為が終了した段階で、早期に退院できるよう、受け入れ態勢を整え、ワーカーと協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明して、そのような時期に入った場合、今後について施設・医師・ご家族様と3者で話し合いをし、ご要望に合わせた計画書を作成し、地域の訪問看護に入って頂き終末期を支援しております。	契約時、重度化した時の指針を、キメ細かく説明している。重度化して来たら、家族、事業所、かかりつけ医で、連携を密にして、事業所で、出来ること、出来ないことを確認し、対応している。オープンして1年あまりで、1名の看取りをおこなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を含め、ミーティングで情報を共有している。ガイドラインで示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練を実施している。施設のすぐそばに、民生員様とオーナー様宅があり協力体制を作っている。	避難訓練は年2回実施している。コロナ禍で、消防署立ち会いは無かったが、日中想定でおこなわれた。事業所オーナー、民生委員の協力体制も出来ている。また、非常時の自家発電設備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ親しんでも、言葉使いや対応には敬意をもって対応するよう指導している	個人情報、書類については、鍵のかかるロッカー、パソコン、タブレットは、パスワードで管理している。言葉遣いは、雑にならないように、常に確認し合っている。また、休憩室に、不適切ケアの資料を置いて、注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は大前提で、ご自分の思いを口に出来るような声掛けを徹底している。 職員の思いでケアするのではなく、待っても利用者様の思いを聞けるようなケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースで一日が動かないよう、入浴を午後にして、朝も夜も急がず、利用者様のペースで生活できる環境を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	石鹸や、化粧水、肌着など、お客様のご要望に耳を傾け、ご家族様に承諾を頂いた上で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米を研いで頂いたり、副食小分けすることを、利用者様に行って頂いている。 食事の量や硬さを確認し、食べやすさに着目し利用者様の思いに寄り添っている。	食材は、外注で届く。メニューやカロリーは計算されていて、利用者も職員と一緒に調理をおこなっている。テーブル拭きや配膳、下膳も手伝っている。管理栄養士がいて、利用者の希望を聞きながら、正月のおせち料理、クリスマスケーキづくり等楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分・体重などを適宜確認し、必要に応じて、声かけを行っている。 管理栄養士も現場に入りながら、利用者様の上記要確認を自ら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施して頂き、出来ない方には介助している。 隔週で訪問歯科が入り、口腔内の定期確認と、歯ブラシの確認をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットで個々の排泄パターンを管理を行い、定時誘導も取り入れている。トイレでは羞恥心に入りながらパットの確認も行っている。	タブレットを活用して、排泄パターンを確認している。量、形状、便秘の有無など記録している。日中も夜間も、ほぼ全員トイレで排泄出来ている。また、ポータブルトイレを使う人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを用いている。また、日々の生活の中で座ったきりにならないよう、歩行や運動など身体を動かす時間を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、前日にお声を掛け明日の入浴が可能か利用者様意志を確認し、当日も同意を頂いてご希望の時間も決めて頂いており、出来るだけお客様の希望に沿うようにしており、無理強いはいしないように対応している。	週2回の入浴を原則としている。希望があれば、いつでも対応している。概ね午後1時過ぎから、入浴時間としている。入浴拒否の人もいるが、奥様の支援で入浴出来ている。職員と1対1で会話も弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせ、午前、午後と決めず、利用者様の生活習慣を尊重して支援しております。また、体調の変化にも合わせて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主体となって管理しております。状態の変化は事前シートに職員が記入し、往診の際、情報提供を行い、医師・薬剤師とも連携し対応しております。また、誤薬防止の観点から服薬はダブルチェックを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今したい事に耳を傾け、食やレクなど利用者様の思いに沿って支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩については、日々のケアの利用者様のタイミングに合わせて支援している。月に一度程度ではあるが、分けながらドライブにお誘いしている。陽気の良い時は、駐車場にて青空体操を行っている。	天気の良い日は、近所を散歩して、外気浴を楽しんでいる。駐車場を利用して、青空体操もおこなっている。また、コロナ禍で、家族との外出は、禁止されているが、近くの公園をドライブして、窓越しではあるが、季節を感じて頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で地域に出の買い物の実施が出来ていないが、利用者様にレジに並んで頂き、支払いをして頂きたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご本人の目の前で番号を押して電話を繋いでいる。 手紙についてはまだ実績はないが、利用者様からご家族様に向けて年賀状を出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やテーブルなどもお客様の生活に合わせたものを選んで使用している。	南向きのリビングは、広くて、明るい。エアコンや空気清浄器も完備している。定期的に換気もしている。壁には、職員と一緒に作った、クリスマスツリー等が飾られている。掃除も職員と一緒に、モップ掛けなど、毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに、ソファを置いて利用者様同士が触れ合える環境を作っている。また、廊下の突き当りには一人になりたいときや、廊下歩行して疲れた時の為、椅子を置いて座れる環境を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、馴染みの有るものを持ち込んで頂き、落ち着ける環境を作って頂いている。	エアコン、ベッド、布団、枕、3段引き出し、テレビ、ナースコール、ベッドセンサーが備え付けられていて、安心出来る。畳の人もいる。家族の写真、タンス、机など使い慣れた物を持ち込む人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、全てバリアフリーとなっている。ずり足傾向の利用者様の転倒リスクを軽減し、安全に歩行も行き、トイレ内においても、安全に使用することが出来る。また、オール電化でガスは使用していない。		